

大人教 夏季研 人権教育セミナー2025

8月 19 日(火) 13:30～16:30(受付 13:00)

※特別講演会コースのみ13:00～16:45(受付 12:30)

大人教夏季研の人権教育セミナーでは、今回 10 コースを設定し、多くのみなさんの参加をお待ちしています。

コース名	セミナータイトル	講 師 等(敬称略)
①特別講演会 ※ 受付 12:30 13:00～16:45 (12:30 座席券配付)	【第1講】 「ともに学び ともに育つ」教育とは？ ～当事者の声を聴いて～	東 佳実 (NPO 法人ちゅうぶ 東住吉区障がい者基幹相談支援センター／自立生活センター・ナビ)
	すべての子どもたちが対等な関係性を築きながら学べる社会とはどのようなものか。東さんのお話を通じて、子どもたちが対等な関係を築くために大切なこと、そして「ともに学び ともに育つ」学校や社会のあり方について、みなさんとともに考える時間にしたいと思います。	
	【第2講】 ラーニングダイバーシティの夜明け ～すべての子どもたちの学びが保障される教育のこれから～	村中直人 (一般社団法人 子ども・青少年育成支援協会)
	子どもたち一人ひとりの学び方が大切にされる授業や学校とは？ ラーニングダイバーシティとは？村中さんのお話から、学校園所のこれまでと今を問い直し、すべての子どもたちの学びが保障される教育のこれからを、みなさんとともに描きましょう。	
②子どもの人権 A	子どもの権利をまんやかに、安心と参加の場をつくろう ～一人ひとりのくらしや思いから学ぶ～	なっとうきな一せ (府内教職員による人間関係づくりファシリテーターチーム)
	子どもたちが自分の「きもち」に気づき、表現すること、安心できるクラスや学校のルールを自分たちで作りかえていくこと、これらは子どもの権利(意見表明権や参加する権利の保障)そのものです。ワークショップを通じて、子どもの権利をまんやかに据えた授業づくり、学級づくりについて、参加者のみなさんがかかわっている子どものくらしや思いから学び合いましょう。	
③子どもの人権 B	つくるうウェルビーイングな学校・教室・授業 ～ファシリテーションを通して～	ちょんせいこ (株式会社 ひとまち)
	一人ひとりの子どもの権利が尊重され、安心してその場にいられて、学びたいと思える、教職員もやりがいをもって働きたいと思える、そんな教室づくり・学校づくりをどのように進めていけばよいのか。一人ひとりの成長や幸せとまわりの仲間や社会の幸せが往還する「ウェルビーイング」を実現する教室・授業や学校について、ファシリテーションを体験しながら考えを深めていきます。	
オンライン	インクルーシブ教育を進めるためのステップ ～人権教育とのつながりの中で～	濱元伸彦 (関西学院大学) 実践報告(交野市立私市小学校)
④「ともに学び ともに育つ」教育	就学前から小・中・高、そして地域・社会の一員として、「権利の主体者」としてともに生きる「ともに学び ともに育つ」教育の充実において、子どもの育ちをどうつなげていくかについて、濱元さんからお話いただきます。インクルーシブ教育について、学校での具体的ななとりくみとの関係を考えます。続いて、交野市立私市小学校より、誰もが安心して過ごし、学べる学級・学校園所づくりについての実践を、具体的ななとりくみや子どもの姿から報告いただきます。	
オンライン	ウェルビーイングな学級・学校社会づくり ～子どもたちが主体となる授業とは～	園田雅春 (元大阪教育大学))
	大阪の子どもたちのアンケートから、子どもの権利が大切にされた学級・学校づくりの推進の重要性が明らかになりました。すべての子どもが主体となる協働的な授業づくりについて、園田さんのお話を通して学びます。ウェルビーイングの実現のためには授業づくりが重要です。ウェルビーイング実現のための授業について学びを深め、2 学期以降の具体的な改善策とアクションプランを考えます。	
⑤学力保障と授業づくり		

コース名	セミナータイトル	講師等(敬称略)
⑥ 部落問題学習	『差別する人の研究』 ～人権課題の解決を自分事に～	阿久澤麻里子 (大阪公立大学)
	部落地名総監事件から 60 年が経ち、部落の所在情報(土地)は部落差別を助長するものとされていますが、今なお、インターネット上にそれらの情報が掲載されています。また、それらの情報を悪用して、偏見や誹謗中傷につながっているという現実があります。 阿久澤さんのお話から差別が生まれるメカニズムを理解し、差別する側のことを学ぶことによって、差別を許さない子どもたちを育てる実践につなげていきましょう。	
オンライン ⑦ ジェンダー平等教育	ジェンダー平等を学校から ～だれもが自分らしくいられる学校へ～	水野英莉(流通科学大学) 実践報告(高槻市立第四中学校)
	ジェンダー平等、性の多様性について、学校園所において関心が高まり続いている一方で、社会、学校園所は、性的マイノリティの人を含め、すべての人にとって安心して自分を表現でき、生きやすいものになっているとはいいがたい状況です。1 時間の授業ではなく、包括的にさまざまな人権課題を含んだ単元としてジェンダー平等について考え、子どもたちがアライとして、社会の在り方、生き方につなげる学習の創造が必要です。子どもたちの人権を保障し、ジェンダー平等・性の多様性が尊重された社会の実現に向けて、水野さんのお話と実践報告から大切にしたい学びについて考えましょう。	
⑧ マイノリティの人権	水俣病問題に学ぶ ～自分ごとにする人権教育のあり方とは～	永野三智 (水俣病センター相思社)
	教科書にも掲載されている四大公害病としての「水俣病問題」。過去の問題ではなく、今なお後遺症に苦しみ、偏見や差別にさらされる水俣病患者の現実があります。水俣病が発生した原因だけでなく、分断や偏見、差別など様々な問題を引き起こした社会背景を捉え、現代社会の課題を問います。 永野さんのお話から、人権課題を自分ごとにする人権教育のあり方について学び、2 学期以降大切にしたいことや具体的な授業づくり、とりくみについて考えます。	
オンライン 【府立人研共催】 ⑨ 子どもの育ちと進路保障	すべての子どもの進路を保障する学校づくり ～卒業後の社会参加を見据えて～	土口千恵子(四天王寺大学) 実践報告(大阪府立平野高等学校)
	子どもたちを取り巻く状況をふまえ、すべての子どもが安心・安全に過ごすことのできる居場所づくりや多様なニーズがある子どもたちを支える学校のあり方について、セミナーを通して考えます。また、進路を保障していく上で大切にしたい観点について、実践報告を通して参加者と共有しながら深めます。	
【府外教共催】 ⑩ 共生の教育 【多文化共生】	子どもに届く在日外国人教育を ～『ちがひ ドキドキ 多文化共生ナビ2』を使って～	榎井 縁(藍野大学) 実践報告(松原市立松原南小学校)
	『ちがひ ドキドキ 多文化共生ナビ～在日外国人教育実践プラン集～』略して『ちどナビ』は、在日外国人教育にこれまでとりくんだ経験のない人であってもとりくめるよう、府外教で作成したプラン集です。2023 年には第 2 集となる『ちどナビ2』を発刊しました。今回は、この『ちどナビ』を活用した授業実践を松原市立松原南小学校から紹介いただき、子どもたちに届く学習をどうすすめるか、みなさんとともに考えます。また、講演では、『ちどナビ』の監修者である榎井 縁さんにお話しいただきます。「すべての子どもたちが未来に展望をもって、ありのままの自分で生きられる社会の実現」に向けて、大切にしたいことは何か、ともに考え、新たな実践につなげていきましょう。	

※内容等については、6 月 10 日時点のものです。